

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成28年3月17日(2016.3.17)

【公表番号】特表2013-532491(P2013-532491A)

【公表日】平成25年8月19日(2013.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-044

【出願番号】特願2013-523345(P2013-523345)

【国際特許分類】

A 2 4 B 13/00 (2006.01)

A 2 4 B 15/30 (2006.01)

【F I】

A 2 4 B 13/00

A 2 4 B 15/30

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年1月29日(2016.1.29)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

メルトブローポリマー繊維110は、メルトブロー装置120を用いて製造することができる。メルトブローは、押し出しダイを通じて溶融ポリマー樹脂を押し出し、気体を投入してフィラメントを延伸してポリマー繊維を生成する押し出しプロセスである。気体は、各スピナレットを囲むオリフィスを通じて高速で吹き出す加熱した空気であり得る。他の態様においては、熱した空気の層が、スピナレットの列の間のスロットを通じて吹き出し - ポリマー材料のストランドが、2つの空気の層の間に捕捉されることによって漸先形(attenuate)にされる。漸先形化用の気体(例えば、加熱した空気)を送達する他の方法も可能である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

ポリマー材料を形成する他のプロセス

スパンボンド

無煙タバコと組み合わせるためのポリマー材料を提供するのに、スパンボンドプロセスを使用することもできる。いくつかの態様においては、メルトブローポリマー繊維とスパンボンドポリマー繊維の交互の層が、無煙タバコと組み合わせられる。スパンボンドプロセスとメルトブロープロセスは、機器および作業者の視点である程度類似しており、無煙タバコは実質的に類似の様式でこれらのプロセスに追加することができる。典型的なメルトブロープロセスと典型的なスパンボンドプロセスの間の2つの大きな違いは：i) フィラメントを漸先形にするのに使用される空気の温度および容積；ならびにii) フィラメントを延伸するまたは漸先形にする力を加える場所である。メルトブロープロセスは、フィラメントを漸先形にするのに比較的少量の高温の空気を使用する。空気の温度は、ポリマーの溶融温度と同じまたはわずかに高いものであり得る。これに対して、スパンボンドプロセスは一般に、最初に繊維を急冷し、次いでその繊維を漸先形にするのに大気温度に近い少

量の空気を使用する。メルトブロープロセスにおいては、延伸するまたは漸先形にする力は、ポリマーがまだ溶融状態にある段階でダイの先端に加えられる。この点に力を加えることで、マイクロファイバーを形成することができるが、高分子配向は実現しない。スパンボンドプロセスにおいては、この力は、ポリマーが冷却され固化した後に、ダイまたはスピナレットからある程度離れた点に加えられる。この点に力を加えることで、高分子配向に必要な条件が提供されるが、マイクロファイバーの形成には寄与しない。したがって、スパンボンドプロセスは、上記と実質的に同じプロセスで、ウェブを形成するおよび/またはポリマー材料と無煙タバコを組み合わせるのに使用することができる。スパンボンドポリマー繊維は、いくつかの態様において、スパンボンドポリマー繊維がタバコの繊維構造の一部の表面トポグラフィに少なくとも部分的に順応するよう無煙タバコと接触させる際またはその直前に加熱され得る。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0076

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0076】

ポリマー材料は、複数の材料を含むことができる。いくつかの態様において、第1のポリマー材料の構造繊維が、第2のポリマー材料の構造繊維に分散または重層される。例えば、低溶融性のポリマーは結合剤として機能し得、これは高溶融性のポリマー構造繊維に分散された散在する繊維であり得る。他の態様において、構造繊維は、異なる材料から製造される複数の成分を含み得る。例えば、低溶融性のシースで高溶融性のコアを囲むことができ、それによって順応および/または結合プロセスを補助することができる。多成分繊維の成分はまた、並列構成で押し出しすることができる。例えば、異なるポリマー材料をメルトブローまたはスパンボンドプロセスにおいて共押し出しおよび延伸し、多成分構造繊維を形成することができる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0081

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0081】

タバコ

無煙タバコは、口内で使用されるタバコ製品において使用するのに適したタバコである。「無煙タバコ」は、処理されたニコチアナ (*Nicotiana*) 属のメンバーの一部、例えば葉および茎、を意味する。タバコの例示的な種には、*N. ルスティカ* (*N. rustica*)、*N. タバカム* (*N. tabacum*)、*N. トメントシフォルミス* (*N. tomentosiformis*) および *N. シルベストリス* (*N. sylvestris*) が含まれる。適当なタバコには、発酵および非発酵タバコが含まれる。発酵に加えて、タバコは、他の技術を用いて処理することもできる。例えば、タバコは、熱処理 (例えば、熱調理、トースト焼き)、香味付け、酵素処理、膨張および/またはキュアリングによって処理することができる。発酵および非発酵の両方のタバコは、これらの技術を用いて処理することができる。他の態様において、タバコは、未処理のタバコであり得る。適当に処理されたタバコの具体例には、エアキュアリングされた黒タバコ、ファイアキュアリングされた黒タバコ、パーレー種タバコ、フルーキュアリング (*flue cured*) されたタバコ、およびシガーフィルターまたはシガーラッパーのタバコ、ならびに全葉ステミング作業由来の生産物が含まれる。いくつかの態様において、無煙タバコは、新鮮重量 (*fresh weight*) 基準で最大70%の黒タバコを含む。例えば、タバコは、米国公開第2004/0118422号または同第2005/0178398号に記載されるような加熱、乾燥および/または低温殺菌工程により調整され得る。発酵は、典型的には、高い初期含湿量、熱の発生および乾燥重量の10から20%損失によって特徴付けられる。例えば、米国特許

第4,528,993号；同第4,660,577号；同第4,848,373号；および同第5,372,149号を参照のこと。葉の芳香の調整に加えて、発酵は、葉の色および質感のいずれかまたは両方を変化させることができる。また、発酵プロセスの間に、放散気体が発生し得、酸素が摂取され得、pHが変化し得、そして保持されている水分量が変化し得る。例えば、米国公開第2005/0178398号およびTso (1999, Tobacco, Production, Chemistry and Technology, Davis & Nielsen, eds., Blackwell Publishing, OxfordのChapter 1) を参照のこと。キュアリングされた、またはキュアリングおよび発酵されたタバコは、無煙タバコ製品に組み込む前にさらに処理（例えば、切断、膨張、ブレンド、粉碎または破碎）され得る。タバコは、いくつかの態様において、ポリマー材料ならびに任意で香味料および他の添加物と混合される前に、48から50重量パーセントの間のオープン揮発物含有量を有する、ロングカットの発酵、キュアリングされた湿性タバコである。